

外構床タイル

新築工事で配慮すべき事項のうち、今回は外構床タイルの不具合について述べる。タイル貼りは一般的にタイル貼付けモルタルで接着し、目地材で仕上げる人が多いが、目地からの吸水を避けることは困難であり、染み込んだ水分が凍害や熱膨張などを起こし、タイルを剥離させてしまうことがある。

写真1は雨掛かりの床タイルの浮きで、水の浸入による影響が原因と推察される。養生テープを貼った個所が浮きにより割れ、跳ね上がった状態となる。写真では分かりにくいですが、赤線

マンション
大規模修繕

新築工事への
フリードバックⅡ

NPO法人
ニューアル技術開発協会

8



写真1

写真2

部分を頂点に山型に盛り上がっている。

写真2はその床タイルの撤去清掃後の状況である。下地は金鋺仕上げで平滑化された状態であった。タイルの接着のため、下地を木鋺などで目荒らし状態をつくり、タイルの接着強度を

染み込んだ水分が剥離誘発

意匠に加え構造的検討重視

高めるようにして、さらにモルタル下地接着剤として専用の弾性系接着剤を使用すれば、このような状態を未然に防げたはずだ。

写真3～6に示すように、通路部分でも同様のタイル浮き現象がみられる。対処方策として、弾性系の接着剤使用と誘発目地新設を施した。エントランス・アルコープなどの雨掛かり部分

でタイルや石を使用する場合には前述の作業手順のほかに、吸水防止剤などの対策を施すことがより必要だが、防滑性能が低下しないように検討することを忘れないでほしい。

また、約3mごとに伸縮調整目地を設置することも重要である。特に構造スラブと土間スラブの境界や、コンクリートの打継ぎ部分には誘発目地を設ける



写真3

写真4



写真5

写真6

ことが欠かせない。最後に、膨張収縮によるエクステリア系の不具合としては、ほかにもさまざまな事例はあるが、以下にそ

の一部を列記する。

▷ 堅樋の熱膨張収縮による破断などには伸縮継ぎ手の採用▷ 手摺りの端部のクリアランスなどにも伸縮継ぎ手の採用▷ エキスパンションジョイント継ぎ手部のクリアランス確保▷ 外構フェンス端部のクリアランス確保のため伸縮継ぎ手採用▷ 外構手摺り支柱部の基礎コンクリート部のひび割れ防止対策として支柱部に縦目地の設置

外構床やアルミ・ステンレス製品などは、意匠的な要素が強くなりがちだが、建築的・構造的な検討も重視し、不具合がでにくい環境を考慮してもらいたい。